



Dziękuję bardzo

『人空羽衣遠』⑬

『この国の多くの人々がポーランドの東隣は日本だと感じている。残念ながら今のところ片思いではあるが…』

ポーランドの人々は日本の何に好感を抱いているのでしょうか。歌舞伎や浮世絵など日本の伝統文化？ 柔道や合気道など日本の武道？ 漫画やアニメなど日本の現代文化？ 日本の音楽？ 和食？ 自動車や新幹線など日本のテクノロジー（科学技術）？ ……すべてあてはまります。でも、これだけではありません。ポーランドの人々は日本のもっとすごいことに気付いているのです。それは、「日本の心」「和の精神」です。

日露戦争

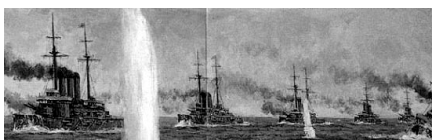
日露戦争(明治 37 年～ 38 年)は、日本が帝政ロシアを相手に戦って勝利した戦争です。

明治 30 年代、日本の近代的な国づくりがようやく軌道に乗りつつありました。ところがその頃、ロシアは鉄道を建設してシベリア東南部に続々と軍隊を送り込んでいました。そして、中国東北部から朝鮮半島にまで勢力を伸ばし、日本にもロシアの脅威が迫っていました。



このままロシアの軍事的拡張を許すと、やがて日本もロシア帝国主義に呑みこまれてしまうおそれがありました。日本は戦争を回避するため粘り強く外交交渉を続けましたが、ロシアは兵力を増強して日本に圧力をかけたため、やむを得ず開戦に踏み切りました。

当時、極東の一小国に過ぎなかった日本は、世界最強と言われていたロシア帝国陸軍を相手に一歩もひかず互角に戦います。日本海軍も、明治 38 (1905) 年 5 月 27 日～ 28 日の日本海海戦においてバルチック艦隊を破り、完全な勝利をおさめました。そして、日本が勝利しました！



この結果に、ロシアに国を奪われていたポーランドやフィンランドの人々は狂喜しました。国土回復への希望が生まれたのです。

更に、白人国家の植民地にされていたアジアの人々も熱狂的に喜びました。日本の勝利は、白人優位の世界が終わったことを意味したのです。

シベリア孤児の救出

シベリアは長い間、ロシアに抵抗して捕らえられたポーランド愛国者の流刑の地でした。ロシア帝国が革命によって終わった 2 年後の 1919 年、ポーランドはようやく独立できました。しかし、ロシアは内戦で混乱し、シベリアに流されていたポーランド人とその家族は故郷に帰ることができなくなりました。シベリアに住む十数万人のポーランド人、特に親を失った子供たちは悲惨な状況にありました。正確な数は不明ですが、当時、約三千人以上の孤児たちが取り残されていたのです。

せめて子供たちだけでも無事に祖国に連れ帰りたい！と、ポーランド政府は救済委員会を組織して欧米諸国に救助を求めたのですが、大国ロシアとの紛争を避けたい欧米諸国は、ことごとく救済委員会の申し出をしりぞけます。シベリアにいる孤児たちは、ヨーロッパの国々から見捨てられてしまったのです。



1920(大正 9)年、救済委員会会長であったビエルキエヴィッチ女史が来日し、外務省を訪れて孤児の惨状を訴え、日本政府に援助を懇請しました。

外務省は日本赤十字社に働きかけ、16 日後にはシベリア孤児救済が決定されます。独立間もないポーランドとまだ外交関係のないことを考えれば、驚くべき早さでした。

日本赤十字の救済活動は、シベリア出兵中の日本陸軍の支援を得て、決定からわずか 2 週間後には動き出します。陸軍と赤十字の救出隊は、マイナス 40 度にもなる極寒のシベリア奥地に分け入って孤児の救出活動を行いました。そして、2 週間後には 56 名の孤児第一陣がウラジオストクを發って敦賀経由で東京に到着、翌 1921 年まで 5 回にわたり孤児 375 名を救出しました。

さらに、翌年夏には第二次救済事業として 3 回にわけて 390 名、合計 765 名の孤児を救出したのです。

民主化に貢献した日本人

第二次世界大戦後、ポーランドはソ連の衛星国として社会主義体制を押しつけられ、計画経済の名のもとに、経済的自由も言論の自由も制限されていました。

1956 年 6 月、ポズナニの人々が工場に対して正当な給料の支払いを求めて行ったデモを、政府が警察や軍を使って弾圧したことから暴動に発展、100 名を超える死傷者が出ました。政府の強硬な姿勢の背後には、ソ連の軍力による無言の圧力があったのです。デモは弾圧されましたが、人々の自由を求める気運は全国に広がっていきました。

グダニスクは第二次世界大戦が勃発した悲劇の地ですが、ワレサ(レフ・ヴァウensa Lech Wałęsa)氏を中心とするこの造船所の職員が言論の自由を求めて始めた「連帯活動」は、戦後 30 年におよぶソ連の束縛を打ち崩し、ポーランドの真の独立と自由を勝ち取る民主化革命・東欧革命へと発展していきました。グダニスクは「連帯」によってポーランド民主化を記念する地となったのです。

ところで、ポーランドの民主化とワレサ大統領誕生の陰には、著名な映画監督アンジェイ・ワイダ氏のほか、梅田芳穂(よしほ)という日本人の活躍がありました。

梅田氏は、ワレサ議長ら連帯の主要幹部が政府の監視下で動きのとりにくい時に、国外に出て欧米各国や日本に支援を求めました。特に、ローマ法王ヨハネパウロ 2 世に謁見を許されてポーランドの窮状を訴えたことが、東欧各国の民主化とソビエト連邦の崩壊に大きく影響したとされています。

なお、残念なことに、梅田芳穂氏は 2012 年 5 月に逝去されました。ご冥福をお祈りします。



梅田芳穂氏 Lech Wałęsa 大統領